

平成22年 5月31日現在

研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2008～2009
 課題番号：20730175
 研究課題名（和文）保健事業の効果測定—費用負担のあり方と便益—
 研究課題名（英文）Evaluation of effectiveness of public health service

研究代表者
 佐藤 雅代 (SATO MASAYO)
 関西大学・経済学部・准教授
 研究者番号：80295617

研究成果の概要（和文）：

保健事業の実施主体に関する情報を収集し、および予防関連事業について比較分析を行った。特に、医療・保健を取り巻く環境、国保を含む自治体の財政等について、統計分析のみならず関係者と意見交換をすることで現状を把握し、課題を明らかにした。

具体的には、自治体病院が広大な面積をカバーしつつ地域医療を担う道北地域の中で2次医療圏の枠組みを超えた広い圏域を対象に、議論を整理し、中核病院である名寄市立総合病院や中頓別町国保病院などでヒアリングを実施し、当事者らと議論を行った。これらの知見は論文「地域医療を考える—中頓別町にて—」他としてまとめ、学会他で報告した。

研究成果の概要（英文）：

The information and data about the public health service carried out by cities, towns and villages and the public hospital were collected. I carried out at the beginning focusing on the information gathering about the service relevant to prevention, and a comparative analysis. My attention was paid also to the service on the whole currently carried out as public roles, such as health, medical treatment, and welfare, with progress of this research. The feature of this research is having striven for actual condition grasp having conducted statistics analysis about the finances of the environment which surrounds health and medical treatment, and the cities, towns and villages containing national health insurance, and by carrying out the persons concerned and exchange of opinions of the spot.

In the northern Hokkaido area, the public hospital is bearing the medical treatment of the large area. I argued with many people about the medical treatment and health for not a demographic division of medical services but a larger area which were decided publicly, and extracted the point of argument.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野： 社会科学

科研費の分科・細目： 経済学・経済政策

キーワード： 保健事業、地域医療、自治体病院、地域ニーズ、道北地域、地域中核病院、国民健康保険、財政

1. 研究開始当初の背景

高齢化に伴い急増する高齢者医療を中心に医療の適正化・効率化を図ることは喫緊の課題である。しかし、健康を害している高齢者をターゲットとし、その医療費を自己負担増等の価格誘導でコントロールするだけでは限界があるし、倫理的にも問題がある。そこで、高齢になっても可能な限りその健康水準を下げないような取り組みとして、予防関連保健事業に着目し、国民が生涯にわたり健康的な生活をおくることを目指した「継続的な健康保障」システム構築について検討したいと考えた。

2. 研究の目的

これまで「継続的な健康保障」という観点から検討されてきたのは、医療機関の連携（病-病、病-診等）が多かったが、これは課題の1つの側面ではない。なぜなら、この議論は既に疾病を持つ人々に対して医療機関が如何に連携するかを検討するものであり、いわゆる病気を持たない人々が対象からはずれているからである。病気を持たない人も、将来の患者予備軍であり、その意味でこの議論を詰めていくことの重要性を否定するものではない。しかし、将来的な病気の発症を抑える（あるいは後らせる）ための健康管理（予防や是正等）を提供するような健康保障の枠組みについて検討することにより、本研究はこれまでの分析に欠けていた視点を補うことになる。

医療保険者が予防関連保健事業の現物給付において果たしてきた役割を明らかにした上で、保険者が事業を行う際の能力格差について焦点を当てる点にある。これまでの研究は給付管理能力について検討しておらず、その結果給付管理能力が一律であると暗黙のうちに前提していることになるため、保険の異なる被保険者の健康格差・医療費実績格差について説明する能力が欠けていると言わざるを得ない。この問題点を解決したいと考えた。

特に、市町村が実施する保健事業支出や、保健事業の実施主体でもある自治体病院（いわゆる公立病院）のおかれている状況を明ら

かにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 保険者が行う予防関連事業についての調査①が中心となる。第1年次は市町村国民健康保険および自治体病院が行う予防関連保健事業の実態についてのヒアリングおよび、特定健康保険組合を含む各健康保険の前期高齢者年齢階級別医療費実績のデータセット構築②および、予防と健康水準に関する学術的先行研究（医学関係・公衆衛生関係の研究）調査が主となる。

①予防関連保健事業の基本的実態を把握する。

1) 現在実施されている予防関連保健事業を、制度別に調査する。

2) いくつかの特定市町村で実施された予防関連保健事業を、過去に遡って調査する。

3) 予防関連保健事業への参加状況・希望を、住民へのヒアリング調査で明らかにする。

4) 予防関連保健事業における国・地方および保険者の役割分担とその推移を整理する。

5) 三位一体改革にともなう、予防関連保健事業関係の補助金等の廃止・縮減を整理する。

②前期高齢者世代の年齢階級別医療費を把握する。

1) 制度別の医療費の推移について、年齢階級別に整理する。

2) 制度別・地域別に1人当たり予防関連保健事業支出や医療費実績に差があるか検証する。

3) ある地域について、制度別・年齢階級別の医療費の水準を詳細に調査する。

(2) 主なヒアリング先は以下の通り。

①北海道 名寄市立総合病院

②北海道 中頓別町（国民健康保険病院 他）

③北海道 市町村の役場、病院 他

④北海道かが大学（公共政策大学院 他）

⑤福島県三春町（保健福祉課、町立病院 他）

なお、特に2008年9月5日「持続可能な地域医療のあり方を考える」～第1回 中頓別会議～シンポジウム は有意義なヒアリン

グの機会であった。前年度に札幌で実施した「地域医療における自治体病院のあり方」と題したセミナーをきっかけに、自治体病院の地域医療における役割、経営改革の進め方、官民連携による経営改革の可能性など、道内自治体病院のあり方について骨格的な検討を開始し、特に道北地域を重点的に調査したことで始まった機会である。名寄市立病院長、旭川医科大教授、徳島県病院事業管理者らに講演いただくと同時に、道北10町村の首長、および当該地域の自治体病院・診療所等医療機関の医師・事務長等。道北地域の関係者にご参加いただいた。

4. 研究成果

(1) 1年目は、保健事業の実施主体に関する（医療・保健を取り巻く環境、国保を含む自治体の財政等）情報を収集し、予防関連事業についての調査（A）、国民健康保険を含む各健康保険の前期高齢者年齢階級別医療費実績のデータセット構築（B）を主として行った。

A. 予防関連保健事業の基本的実態の把握。
・現在実施されている予防関連保健事業を、制度別に調査した。

・過去に実施された予防関連保健事業を、過去に遡って調査した。

・予防関連保健事業への参加状況について、自身も参加し、参加者らにヒアリングした。

B. 前期高齢者世代の年齢階級別医療費の把握。

・制度別の医療費の推移について、年齢階級別に整理した。

・制度別・地域別に医療費実績に差があるかどうかについて検証した。

また、「地域医療における自治体病院のあり方」と題した2008年1月の議論を踏まえ、自治体病院が広大な面積をカバーしつつ地域医療を担う道北地域の中で、通常の医療が完結する単位とされる2次医療圏の枠組みを超えた広い圏域を対象に、各町村の首長、医師などに出席を呼びかけて2008年9月に「持続可能な地域医療のあり方を考える」～第1回 中頓別会議～シンポジウムを実施した。事前に該当地域の医療機関・町村を訪問しヒアリングを実施し、本番では医療現場や行政現場の抱える課題を抽出するとともに、問題認識の共有、さらには、中核病院との連携、診療機関相互の連携の可能性など、課題解決に向けた具体的方策などについて、当事者らと率直に議論を行った。また、有識者らによる「保健事業について考える」講演会を3回実施するなど議論を行い、知見を蓄積した。

(2) 2年目は、前年度行った保健事業の実施主体に関する情報収集、および予防関連事

業についての調査および分析の精緻化を図り、比較分析を行った。特に、医療・保健を取り巻く環境、国保を含む自治体の財政等について、統計分析をし、関係者と意見交換をすることにより研究の精度を高めた。

具体的には、自治体病院が広大な面積をカバーしつつ地域医療を担う道北地域の中で2次医療圏の枠組みを超えた広い圏域を対象に、前年度に実施したシンポジウムでの議論を整理し、センター病院である名寄市立総合病院や中頓別町国保病院などでヒアリングを実施し、当事者らと改めて議論を行った。

（病院や行政の担当者との議論が、住民による「中頓別の地域医療を考えるフォーラム」開催につながり、ゲストの1人として住民らとの意見交換もできた。）これらの知見は論文「地域医療を考える ―中頓別町にて―」他としてまとめ、生活経済学会他での報告する。当研究の知見を広大な面積を有する中国の医療制度に当てはめた共同研究の成果は国際医療経済学会（北京、2009年7月）で報告した。

重要テーマのうち1年目で取り組めなかった諸外国の予防関連保健事業の実施状況については、来日したタイや中国の研究者らと長時間にわたり情報交換した他、国際医療経済学会で情報収集し、各国の実務家および研究者と積極的に情報を交換した。

効率性格差の是正と社会保障給付の公平性確保のためには、将来的な病気の発症を抑える（遅らせる）ための健康管理（予防や是正等）を提供するような保健事業を医療サービスとともに活用していく体制を地域が選択し構築することが、行財政面からも人々の健康面からも現実的で望ましい。継続的な調査の地盤を構築できたので、成果の公表につとめるとともに、健康保障の枠組みについて検討を続ける。

(3) 研究を進める中で、自治体財政や自治体病院の経営悪化の顕在化といった困難な状況下で、経営改善策としてさまざまな民間化手法について着目せざるを得なくなってきた。また、2007年12月の公立病院改革ガイドラインを受けて、現行の制度的な枠組みのなかで、指定管理者や地方独立行政法人といった方向をめざす自治体の模索の事例に出会うこととなった。

そこで、保健事業実施主体としての自治体病院の経営の効率化、再編・ネットワーク化、経営形態の見直しの手法にも着目して、制度の特色や具体の導入事例などについて整理した上で、一定の効率化効果を実現するために必要な条件整備などについても検討をはじめた。

検討に当たっては、地方公営企業年鑑のデータなどを用いて一般会計からの繰入状況

を把握するとともに、普通交付税や特別交付税を根拠とする自治体の経費負担の姿勢についても検討した。

(4) 効率性格差の是正と社会保障給付の公平性確保のためには、将来的な病気の発症を抑える(遅らせる)ための健康管理(予防や是正等)を提供するような保健事業を医療サービスとともに活用していく体制を地域が選択し構築することが、行財政面からも人々の健康面からも現実的で望ましいとの結論を得た。継続的な調査の地盤を構築できたので、成果の公表につとめるとともに、健康保障の枠組みについて今後も研究を続ける。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

①佐藤雅代、地域医療を考える ―中頓別町にて―、関西大学経済論集、査読無、第 60 巻第 1 号、2010、pp.19-32

②佐藤雅代、書評 岩崎利彦『カナダの社会保障』、生活経済学研究、査読無、第 31 巻、2010、pp.96-99

③佐藤雅代、水資源からみる環境問題、別冊『本』ラチオ、査読無、〇五号、2008、pp.128-143

[学会発表] (計 6 件)

①佐藤雅代、地域医療の課題 ―受診動向と税財源の投入―、生活経済学会第 26 回研究大会、2010 年 6 月 20 日、東北福祉大学

②佐藤雅代、Preservation of Health in Rural communities、ECOSUS-Hokkaido、2009 年 11 月 17 日、北海道大学

③師 穎新、佐藤雅代、China's Health Care Expenditure/Revenue Analysis and Forecast、International Health Economics Association the 7th World Congress、2009 年 7 月 15 日、Beijing International Convention Center (中国)

④佐藤雅代、Finance System in Urban Water Systems、Follow Up Seminar on Management of Urban Water Systems for Southeast European Countries、2008 年 11 月 6 日、Business Center USCE(Bergrade)

⑤佐藤雅代、地域の医療サービス ―医療機関を地域が持つことの意味―、NCU 現代経済

学研究会 08、2008 年 9 月 21 日、北九州市立大学

⑥佐藤雅代、地域の医療サービス ―医療機関を地域が持つことの意味―、北海道自治体学会、2008 年 5 月 31 日、札幌市教育文化会館

[図書] (計 1 件)

①佐藤雅代 (郡司 篤晃 監訳)、聖学院大学出版会、第 II 部第 4 章 公共サービスの動機に関する理論 『公共政策と人間 ―社会保障制度の準市場改革』、2008、82-109

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 雅代 (SATO MASAYO)
関西大学・経済学部・准教授
研究者番号：20730175

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：